

第 55 回駒場祭
エコプロジェクト
活動報告書

① 目次

1 はじめに（広瀬雄一郎）	3
2 ごみ対策（小川拓哉）	4
1. 概要	
2. ごみの分別項目	
3. 各種ごみ箱	
4. ビニール・プラスチックのケミカルリサイクルの詳細	
5. ごみ袋数調査	
6. 担当者総括	
3 展示・実演（宮森映理子）	10
1. 概要	
2. 目的	
3. 内容詳細	
4. 担当者総括	
4 エコ企画（宮森映理子）	13
1. エコ企画とは	
2. 委員会による優遇措置	
3. 認定団体一覧	
4. 総括	
5 広報（志水正敏）	16
1. 概要	
2. 目的	
3. ホームページの公開	
4. パンフレットによる活動紹介	
5. 協賛企業の皆様の広告	
6. 担当者総括	
6 エコ容器（武部芳弘）	19
1. 目的	
2. 容器の選定	
3. 容器の種類	
4. 決算	
5. 担当者総括	
7 収支報告（福吉隆行）	21
8 環境局長総括（福吉隆行）	22

① はじめに

われわれエコプロジェクトは、「減らす、伝える、続けてく」を理念に掲げ、今年も駒場祭という学園祭を舞台に環境対策を行いました。この理念は、駒場祭での環境負荷を「減らす」のみならず、参加者や来場者に身近な環境に対する意識を「伝える」ことによって、社会全体へと環境対策が「続けてく」ことを目指す、というものです。8年目を迎えた今年はその高みへと大きく歩を進めた年であったと思います。

何かを為した際には、必ず成功点と反省点が残ります。今年のエコプロジェクトは反省点もちろん多々ありますが、私の目には成功点の方が際立って映りました。それはひとえに、積年の問題意識の多くが改善されたためだと思えます。詳細は中身を読んでいただきたいと思えますが、ケミカルリサイクル、展示・実演の充実などの大きな目玉をはじめ、分別表示の刷新などの目には映りにくい改善、そしてごみ集積場の運営が従来と同じ方式ながら洗練されたことなど、改善された点は挙げ切れないほどです。

振り返ってみれば、8年前まではごみの分別すら全くなされていなかった駒場祭ですが、現在ではごみ対策だけにとどまらない包括的な環境対策が行われることとなっています。この変化は時代の流れにも対応しているように思います。将来さらに成長し、成熟したエコプロジェクトが「減らす、伝える、続けてく」という理念に込められた高みへと到達し、時代の流れを作るような活動となることを期待しています。そのためにも、エコプロジェクトがこれからも毎年新たな改善を着実に重ねて行くことを願っています。

最後になりましたが、様々な方面でご支援くださった方々に心からお礼申し上げます。今年、非常に充実した活動を行うことができたのもみなさまのお陰です。次回以降もエコプロジェクトの努力と発展を暖かく見守っていただければ幸いです。

第55期（2004年）駒場祭委員会環境局エコプロジェクト責任者
広瀬 雄一郎

② ごみ対策

1. 概要

2004年度駒場祭では、屋外に4ヶ所の来場者用ごみ箱、模擬店テントにごみ袋を設置しました。すべてのごみは集積場へと回収しました。ごみ集積場へ持ってこられたごみはすべて分別状況をチェックし、分別されていないものは、その場で再分別指導を行いました。

2. ごみの分別項目

分別項目はさまざまな処理方法を検討した結果、以下の12分別となり、それぞれがリサイクルまたは適正に処理されました。

① エコ容器

トイレトペーパーにリサイクルされました。

詳しくはP.19

② 紙コップ

同じくトイレトペーパーにリサイクルされました。

③ 割り箸・竹ぐし・つまようじ

パーティクルボード（合板材）にリサイクルされました。

④ ビニール・プラスチック

ケミカルリサイクルされました。

詳しくはP.5

⑤ 紙くず・生ごみ

焼却処理されました。

⑥ ビラ・冊子

再生紙にリサイクルされました。

⑦ カン・ビン

カンは鉄材・アルミ材となり、ビンはビンへとリサイクルされました。

⑧ ペットボトル

再生繊維として、衣服・軍手などにリサイクルされました。

⑨ 金属・陶器

埋め立て処分されました。

⑩ ダンボール

ダンボールとしてリサイクルされました。

⑪ 立看板

③とともにパーティクルボードにリサイクルされました。

⑫ 特殊ごみ（危険なもの、処理が困難なもの）
適正に処理されました。

来場者用ゴミ箱で使用された①～⑨の分別項目は、分別が分かりやすいように絵などをいれた分別表示用の紙を作成しました。

3. 各種ごみ箱

来場者用ごみ箱、模擬店テント横ごみ箱についてそれぞれ報告します。

1) 来場者用ごみ箱

設置場所は、人通りが多い場所や模擬店のごみ箱が近くにない場所などに設置しました。

前述の①～⑨の分別についてのごみ箱を並べて設置し、ごみを捨てにきた来場者に指導員がごみの分別を伝えました。これにより、ごみの分別状況を改善させ、それとともに来場者のごみ分別に対する意識が高まることを

目的と考えています。また、ごみのリサイクルされたその後が分かりやすいようにごみ箱の後ろに簡単な展示を設置しました。

II) 模擬店テント横ごみ箱

上記の①～⑤の5つの分別についてごみ袋を模擬店テントの横に設置してもらいました。

1) の来場者用ごみ箱はこの模擬店テント横のごみ箱を補完する形で設置されました。

各模擬店に必ず設置してもらい、そのごみの分別の責任はその参加団体にもってもらいます。これにより参加学生の分別への意識は向上します。この意識の向上がごみ問題、ひいては「環境」というものを考えるきっかけになることを期待しています。

4. ビニール・プラスチックのケミカルリサイクルの詳細

昨年度まで駒場祭では、ビニール・プラスチックの処理方法としてサーマルリサイクルを採用していました。サーマルリサイクルとは、焼却時の熱を利用して発電を行ったり温水を作ったりするリサイクル方法です。この方法により循環させることができるのは「熱エネルギー」のみであり、ビニール・プラスチックそれ自体は生産的なものを何も生み出しません。サーマルリサイクルという方法は、ただ焼却する場合に比べ熱エネルギーの回収という点では優れるものの、他の点では焼却と変わるところがないといえます。そのうえ、このリサイクル方法での現在の技術における熱エネルギー回収率は、10～20%と大変に低くなっています。これらの事実があったため、エコプロジェクト内でもこのリサイクル方法に対する疑問の声が以前からありました。しかしながら、昨年度までは他によい方法を見つけることもできず、「ただ燃やしてしまうよりは」という消極的な理由によりサーマルリ

サイクルを続けていました。

今年度はこれまでの状況を改善すべく、ビニール・プラスチックのリサイクル方法について徹底的に比較検討を行うことにしました。具体的な比較対象は、サーマルリサイクル・ケミカルリサイクル・マテリアルリサイクルの3つでした。サーマルリサイクルについては前述した通りです。マテリアルリサイクルとは、廃プラスチックから再びプラスチック製品を生み出すリサイクル方法です。この方法によって物質の循環が達成されます。しかし、生産されるプラスチック製品の性質は元のものに比べ劣化しますし、リサイクルする際に不純物の混入を嫌うため学園祭で排出されるビニール・プラスチックの処理方法としては不向きであるといえます。検討の結果、ケミカルリサイクル採用の方向でメンバー間の合意がとれました。

ケミカルリサイクルとは、廃プラスチックを化学的手法により分解し、さまざまな用途に用いる方法です。分解の仕方や分解後の用途の違いによる、いくつかの異なる方法が存在します。今年度エコプロジェクトで採用した方法は、コークス炉化学原料化というものでした。コークス炉とは、石炭から、製鉄所で鉄鉱石を還元するのに用いられるコークスをつくるための施設です。このコークス炉に、石炭とともに廃プラスチックを投入することで、プラスチックを熱分解します。分解した結果、プラスチックはコークス・炭化水素油・コークス炉ガス（水素主体の燃料ガス）になります。コークスはもちろん製鉄過程で用いられ、炭化水素油は塗料などをつくる際の化学原料となり、コークス炉ガスは燃焼させて発電などに用います。以上からわかるようにコークス炉化学原料化によれば、廃プラスチックは100%なんらかの形で資源化されます。

この方法により資源の有効利用を効果的に

2. ごみ対策

行うことができます。マテリアルリサイクルで問題となった、製品の質に関することや不純物の混入に関することもケミカルリサイクルではさほど問題にはなりません。リサイクルの過程で化学結合レベルまで遡るため、質に影響を与えにくくなっているためです。また、廃プラスチック投入によりコークス炉の耐久年数が落ちる、ということも現在は報告されていません。まさに、技術面での問題は存在しないとしても過言はないと言えるでしょう。

駒場祭でこの処理方法を実施するにあたって問題となったのは、処理の委託先と費用についてでした。しかし、こうした問題についても折よく解決の道筋をたてることができました。新日本製鐵株式会社様がエコプロジェクトの理念と活動にご理解を示してくださり、コークス炉化学原料化による処理を引き受けてくださったためです。ここにあらためて新日本製鐵株式会社様への深い感謝の意を表させていただきます。

以上のような経緯により、大学の学園祭において初めての試みである、ビニール・プラスチックのケミカルリサイクルが達成されました。近年、地方自治体により導入が始まっているこの方法を、いち早く駒場祭でも導入することができた背景には、環境対策は常にその時点で最善のものを行っていくべきである、というエコプロジェクトの姿勢が生きています。今年度のこの取り組みにさらなる意味を持たせるには、今後もこのケミカルリサイクルを継続していくことが重要であると考えます。そのうえで、さらによい方法を模索しつつ柔軟にとりいれていくことも忘れてはいけません。しかしながら、ケミカルリサイクルの導入によりビニール・プラスチックの処理については、確実に一つ階段を昇ることができたと考えています。

5. ごみ袋数調査

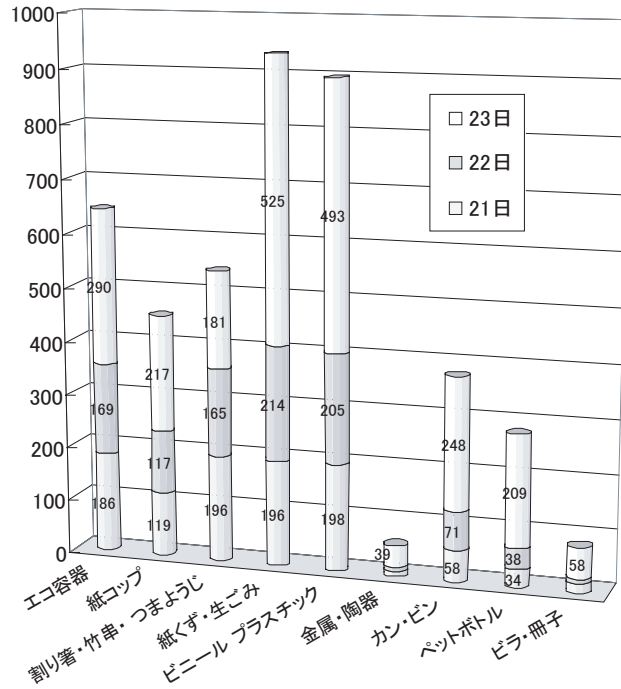
駒場祭で排出されるごみのおおまかな量を把握するためにごみ集積場に持ち込まれたごみ袋の数（割り箸についてはペットボトルをごみ袋の代わりに用いたので、ごみ集積場に持ち込まれたペットボトルののべ数となっている。）を調査しました。

その結果、駒場祭3日間で排出されたごみ袋の総計は4,270袋にものぼりました。これは昨年の3,340袋を大幅に上回る数です。しかし、ごみの量そのものは減っている（8ページの表参照）ので、昨年よりも1袋に入っているごみの量が少なかったと考えられます。

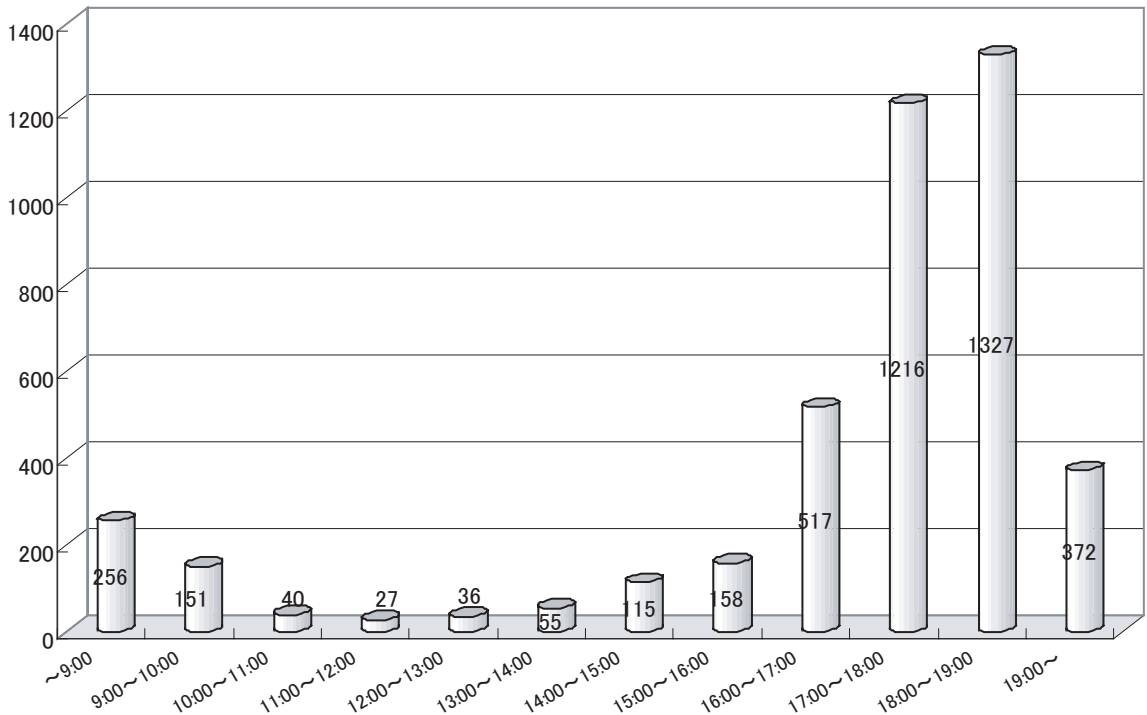
昨年の反省を生かして、今年は、持ち込まれるごみ袋の数を時間毎に詳細に調べました。結果は右のページのとおりですが、やはり公開時間終了後の夕方にごみを持ってくる人が多いです。ごみ集積場の混雑は重要な課題であるので、このデータを来年以降の対策に生かして生きたいと思います。

2. ごみ対策

項目別ごみ袋数



時間別ごみ袋数



2. ごみ対策

品名	今年			去年			今年 / 去年	
	重量 (kg)	処理費	業者名	重量 (kg)	処理費	業者名	重量比	金額費
ビン・カン	1190	21000	三協興産	(8)	21000	長岡商店	-	-
ペットボトル	(20)	0	長岡商店	529	0	長岡商店	-	-
ダンボール	2140	31500	要興業	3500	47250	長岡商店	61.1	66.7
古紙類	1170	33285	長岡商店	2000	31500	長岡商店	58.5	105.7
エコ容器	1360	0	合同資源サービス	1260	0	合同資源サービス	107.9	-
紙コップ	140	0	合同資源サービス	420	0	合同資源サービス	33.3	-
紙くず・生ごみ	?	0	学部	?	0	学部	-	-
ビニール・プラスチック	1480	47250	新日本製鐵	(20)	156870	要興業	-	30.1
木材	2410	68166	東京ボード	4720	96600	東京ボード	51.1	70.6
不燃ごみ	?	0	学部	?	0	学部	-	-
小計	9890	201201		12429	353220		79.6	57.0

新日本製鐵株式会社様に廃プラスチックの処理を行っていただきました。
詳しくはケミカルサイクルの項をご覧ください。

6. 担当者総括

「ごみ」

私たちの生活の中には「ごみ」が溢れています。

きのう、きょう、あした。どのような生活をしていても私たちは多くのごみを出しています。

しかしその「ごみ」について、考えている人、嘆いている人、問題だと感じている人はどれだけいるのでしょうか。普通に生活していれば自分自身の生活の中でごみの問題を実感し、問題意識を持つ場はないのではないのでしょうか。それは「ごみ」が汚いもの、価値のないものとして日の当たらない場所を歩んできたからです。

しかしこの状態のままでは、本当は私たち自身の問題である「ごみ」の問題が人々の目に見えない場所で場当たりの対策を施すだけで終わってしまいます。

そこで人々に「ごみ」の問題とはなにか？と考えるきっかけを与える役割を駒場祭のごみ対策というものが担えないだろうかと考え、学生や来場者自身で分別を行なってもらい、ごみ集積所にごみを捨てに来た人を巨大なごみの山が出迎えます。

このように体を動かし、実際に見て感じてもらう「ごみ」はその人の考えを変える力を持っています。

では、我々は「ごみ」を考えてもらうために何をしてきたのかというと、まず分別項目を決める段階での新しく、より良い処理方法の検討やリサイクルすること自体の意味をメンバーの中で考え、「ごみ」の問題に対するメンバー自身の意識や分別すること自体への意義を深めました。また分別する学生や来場者

が分かりやすく、気持ちよく分別してもらうために工夫しました。そして当日ごみ集積場にやってくるごみをきちんと一つずつチェックしながら、整理していきました。

このように駒場祭のごみ対策は「ごみ」に関心を持ってもらうことを意識しつつ、一番環境にやさしい学園祭を目指して行なわれてきました。

最後になりますが、今後のごみ対策の課題ですがごみの処理や当日のシステムなどはデータが蓄積し、完成度が高いものとなっています。しかし本来の我々エコプロジェクトの目的である「ごみ」の減量には今年度は取り組めなかったのも事実ですし、変化する社会の中でそれに対応し次々と新たな取り組みが行なわれるようなマンネリ化しないプロジェクトを目指していくべきです。成長をとめず、毎年進化していくエコプロジェクトとなることを願いつつ、終わりとさせていただきます。様々な方々のご協力、誠にありがとうございました。

小川 拓哉

③ 展示・実演

1. 概要

昨年同様5号館前噴水広場にエコブースを設置しました。エコブースを中心に、今年度の駒場祭における環境対策の紹介や、それに関連した実演などを行いました。

2. 目的

エコプロジェクトの理念の1つ「伝える」の実現のため、来場者・学内生双方に駒場祭における環境対策の内容、その重要性や環境対策を行う意義を伝えること。ひいては日常生活における環境配慮の意識を高めること。

3. 内容詳細

5号館前噴水広場にて「エコブース」というエコプロジェクト専用のスペースを設けました。ここで展示・実演を行いました。具体的な取組みを以下にあげます。

・環境対策に関する展示

エコブースにおいて、駒場祭での環境対策の紹介、その関連事項の展示を行いました。文章だけでなく図表・絵・写真・実物などを用い、来場者によりわかりやすくなるように心がけました。展示用のパネルにダンボール製のものをを用いることで展示パネルのリサイクルが可能になり、従来の合板材のパネルを用いるより森林への負担を減らすことができました。

以下に展示物の一覧をあげます。

- アルミ缶サンプル
- ボーキサイトサンプル
- アルミナサンプル
- アルミニウム地金

(以上、アルミ缶リサイクル協会様よりお借りしました。)

- スチール缶サンプル
- 鉄鉱石
- コークス

(以上、スチール缶リサイクル協会様よりお借りしました。)

- ペットボトルのフレーク (小片)
- ペットボトルのペレット
(フレークを処理して粒状にしたもの)
- ペレットを加工してできた原綿

(以上、PET ボトルリサイクル協会様よりお借りしました。)

- 駒場祭で使用されているエコ容器のサンプル
- 五月祭で回収したエコ容器・紙コップを破碎したもの

(以上、伊藤忠紙パルプ株式会社様よりお借りしました。サンプルはいただきました。)

- ケナフの原木
- 展示用パネル

(以上、非木材紙普及協会様よりお借りしました。)

- 二次破碎物
(プラスチックを機械で破碎したもの)
- 造粒物

(プラスチック類を破碎後、乾電池大に固めたもの。)

- コークス
- 軽質油
- タール
- 鉄鉱石
- 展示用ポスター

(以上、新日本製鐵株式会社よりお借りしました。)

3. 展示・実演

リサイクル過程を示す物を展示し説明するだけでなく、リサイクル方法ごとのLCA（ライフサイクルアセスメント）比較や環境対策を行う意義についても展示しました。

・エコ企画紹介

環境対策をエコプロジェクトだけのものにとどめることなく、学内全体で取り組んでいくために、環境に配慮した参加団体をエコ企画として認定し、それらの団体に対する優遇措置をとりました（詳細後述P. 13）。優遇措置の一環としてエコブースに立て看板を設置し、エコ企画の内容と場所を紹介しました。

・廃油石鹸作り

体験型イベントとして、大学内の食堂や模擬店で出された廃油を用いて石鹸作りを行いました。廃油をそのまま捨てずに再利用することで環境への配慮をアピールしました。当日は100人以上の方に作っていただくことができました。

・マイ箸作り

前項と同じく体験型イベントとして、端材を削り自分専用の箸を作るという企画を行いました。建築現場などから出る木材の切れ端を無駄にせず利用して、資源の有効利用を考えることを目的としました。エコプロジェクト初の試みとして、NPO「^{サイクリング}cyclink[®]」とコラボレーションしました。

・空き缶アート

構内で回収した空き缶を、色のバランスを考えながら縦に紐でつなぎ、それを何本も吊るすという方法により、空き缶壁画を製作・展示しました。駒場キャンパスで一日に消費される缶の総数とほぼ等しい本数（1600本）を使い製作しました。エコブースを通りがかっ

た来場者の方に少しでも長くエコブースに足をとどめていただき、エコブースのほかの部分を見ていただくことを目的としていました。

・クイズ

展示パネルでの文章による説明だけでは難しい部分が多いため、より気軽に環境に興味を持っていただくため、エコブース内に4つの仕掛け付きのクイズボックス（4択クイズとその解答解説を載せたもの）を設置し、来場者の方に自由に解いていただきました。大人から子供まで、皆様に興味を持っていただきました。

・冊子の配布

エコブースのパンフレットとして、また展示パネルだけでは伝えきれないエコプロジェクトに関連したエコ企画認定・優遇には、各企画の環境負荷低減の推進ということ以上の目的があります。エコ企画という枠組みを設け、それに対し優遇をすることで各企画の方（つまり学内生）に、環境について考えるきっかけを持ってもらおうということ。そして来場者の皆様に対し、大学全体として環境対策に取り組んでいることをアピールすること。ちょっとした工夫で環境に対する配慮ができることを知っていただくこと。といった目的が考えられます。情報を伝える媒体として、冊子「ecocology（エコココロジー）」を製作・配布しました。200部以上を配布することができました。駒場祭で出たごみのリサイクル方法の説明や、ライフサイクルアセスメントによるリサイクル方法の比較、廃油石鹸の作り方の紹介、コラムなどエコプロジェクトの活動全般と関わるさまざまな内容について掲載した冊子になっています。



3. 展示・実演

・堆肥の配布

東大の環境サークル「環境三四郎」が取り組んでいる、駒場キャンパスで出た落ち葉を堆肥化する実験により作られた堆肥を、エコブースにおいて希望する来場者に無料で配布しました。駒場祭期間中を通じて、約 200 袋を持ち帰っていただきました。

・きぐるみ

環境省のキャラクター「コマメちゃん」を環境省よりお借りしました。エコブース周辺にて、きぐるみによるエコプロジェクトの活動のアピールを行いました。エコブースへの集客効果もありました。

4. 担当者総括

学園祭という場において、実質的な環境負荷低減が重要であることは言うまでもありません。しかしながら、学園祭という場だからこそ、企画参加者や来場者の皆様に環境対策の実態や意義を知っていただき、環境配慮の意識を高めていくきっかけをつくることのできるのだと思います。エコプロジェクトの活動意義はこういったところにもあると考えております。そしてこの活動意義を実現するためにエコブースを設置し、展示・実演を行いました。

エコプロジェクトの理念や活動を知っていただくには、まずエコブースに立ち寄っていただくことが重要であると考え、今年度は「来場者の方の目をひく」ような取組みを数多く行いました。それらの取組みにより、今回、多くの方がエコブースを訪れて楽しんでいただけたようです。エコプロジェクトの理念の1つである「伝える」の実現への大きな一歩であったと言えるでしょう。しかしながら、たくさんのことを実行するには準備段階・当日ともに多大な労力を割く必要があります。このため「来場者の方の目をひく」ための取組みに労力を割くあまり、肝心の「最も伝えたい部分（環境対策の現状）」を伝える際の工夫が不足していたように思われてなりません。

展示・実演の取組みはごみ分別の対策などと異なり、はっきりと方向性が定まっているものではありません。その意味で、エコブースはエコプロジェクトの活動の中でも最も自由度の高い活動であるといえます。来年度以降もこの自由さを活かし、エコプロジェクトの活動について、また環境への配慮について、よりよいアピールができるよう努力と工夫を続けていきたいと考えています。

宮森 映理子

④ エコ企画

1. エコ企画とは

環境局では、以下のように環境に配慮した参加団体を「エコ企画」として定義し、申請のあった企画の中から委員会で審査のうえ、さまざまな優遇措置を与えて支援する、という取り組みを行いました。

このエコ企画認定・優遇を行うことには、各参加団体の環境負荷低減の推進ということ以上の目的があります。まず、エコ企画という枠組みを設け、それに対し優遇をすることで各参加団体（つまり学内生）に、環境について考えるきっかけを持ってもらおうということがあげられます。そして来場者の皆様に対し、大学全体として環境対策に取り組んでいることをアピールするというのもあげられます。さらには、ちょっとした工夫で環境に対する配慮ができることを知っていただくという目的もあります。エコ企画を設けることにはこのように何重もの意味があります。

- 定義 -

環境に配慮した取り組みを積極的かつ自主的に行っている企画。実質的な環境負荷低減、環境配慮の意識、ともに持ち合わせた企画を「エコ企画」と呼びます。実際に出るごみの量が少ないことだけが大切なのではなく、環境配慮についての「努力と工夫」も評価します。

2. 委員会による優遇措置

エコ企画の認定を受けた参加団体に対し、以下のような優遇措置をとりました。

・パンフレットでの優先広報

駒場祭のパンフレットの環境対策特集ページを利用して、優先的にエコ企画の紹介を行いました。企画名・内容・地図などを掲載しました。

・エコブースなどでの広報

エコブース内にエコ企画紹介の立て看板を設置し、広報を行いました。また、店頭・部屋の出入り口などにその団体がエコ企画であることを示す看板を置き、来場者にアピールしました。

・「ラッキーチケット」を用いたの広報・優遇

空き缶回収用のデポジット機、「ラッキーチケット」で当たりが出るとエコブースでエコ企画宣伝のちらしがもらえる、という取り組みを初めて行いました。エコ企画宣伝のちらしにはエコ企画限定の割引券をつけるという形で、エコ企画に認定された団体を新たな形で支援しました。

・エコプロジェクトホームページでの広報

エコプロジェクトでのホームページでもエコ企画の広報を行いました。

3. 認定団体一覧

エコ企画として認定されたのは以下の7団体です。

企画名 社交ダンスカフェ

団体名 東京大学社交ダンスサークル銀杏会

<環境に配慮した点>

使用済みのピラなどをコースターとして再利用した

<評価した点>

環境配慮の取り組みを継続的に行っている紙の再利用の意識を高めることに貢献した

4. エコ企画

企画名 豚汁屋 Re: まさお

団体名 2004 年度理科 1 類 5 組

<環境に配慮した点>

箸を持参した利用者には割引券を渡した

<評価した点>

わりばし使用量削減の意識の向上に貢献した

エコレシピとは異なった形で、環境配慮のための工夫をした

企画名 うわさのアイツがやって来た！！

団体名 カントリーマアム

<環境に配慮した点>

鉄くず・廃棄材をオリジナル楽器としてリユースした

<評価した点>

アイデアが斬新である

企画名 あいすのてんぷら

団体名 Free Way

<環境に配慮した点>

油で揚げたアイスをコーンカップにのせて販売することで、容器包装を削減した

エコレシピを実践した

<評価した点>

環境配慮の取組みを継続的に行っている
ごみが一切出ないお菓子である

企画名 三四郎のおみせ

団体名 環境三四郎

<環境に配慮した点>

古着市の開催により、ものの再利用を実現した

途上国の環境に配慮したフェアトレード商品を取り扱い、来場者に対し紹介した

<評価した点>

来場者の意識向上に貢献した

企画名 電気わーくしょっぷ

団体名 カントリーマアム

<環境に配慮した点>

鉄くず・廃棄材をオリジナル楽器としてリユースした

室内の装飾も新しい資材は一切利用しなかった

<評価した点>

アイデアが斬新である
物の再利用の意識が高い

企画名 ふみお君の白玉ぜんざいロール

団体名 2004 年度理科 23 類 20 組

<環境に配慮した点>

エコレシピを実践した

白玉ぜんざいをホットケーキで巻き、容器ごみを削減した

<評価した点>

新しいエコレシピを開発した
ごみ削減の意識の向上に貢献した

4. 総括

エコ企画のような取組みは、他大学の学園祭を見ても、また他のさまざまなイベントを見てもあまり見受けられない制度ではないでしょうか。というのも「エコ企画」として認定された団体がそうでない団体と比べ、実際のところどこまで環境負荷を低減できているのかという点が、非常に曖昧にならざるを得ず、実質的な効果が目に見えにくいからだと思います。

そういった事実があるにも関わらず、駒場祭ではエコ企画の取組みを継続的に行ってきました。それは、私たちの目指すものが、実質的な環境負荷低減にとどまらないからです。私たちの考える「エコ企画」を設けることの意義は、この章の「1. エコ企画とは」を読んでもいただければわかります通り、環境対策をエコプロジェクトだけのものにしないことに集約されます。エコ企画の存在が、参加団体や来場者の方を含めた、学園祭全体で環境に配慮する意識を持つための助けとなることを最終的な目標としているのです。

「エコ企画」を意味のあるものにするためには、エコ企画に対する優遇が参加団体にとって十分に魅力的なものである必要があります。また、大学全体で取り組むためには、多くの企画がエコ企画の申請に参加しやすい体制を整えることも必要となってきます。今年度はデポジット機の導入により、これまでになく新しい優遇措置をとるなどして改善を加えました。しかしながら、どちらの面についてもまだ改善の余地があります。来年度以降、優遇内容のさらなる充実・エコ企画認定制度そのものの広報などを積極的に行っていきたいと考えます。デポジット機の利用についても、より有効な活用法を模索していく必要があるでしょう。

環境への意識を高めて対策を充実させるこ

とと、学園祭そのものを盛り上げていくことの双方を満たしうる活動として、エコ企画の制度の更なる充実をはかっていきます。

宮森 映理子

⑤ 広報

1. 概要

私どもエコプロジェクトが行っている環境対策の意義を学生・来場者に理解していただき、ごみ分別などに協力していただくために、ホームページと駒場祭公式パンフレット中の環境対策紹介ページとにおいて活動紹介を行いました。

2. 目的

エコプロジェクトでは、主として駒場祭で排出されるごみの分別回収・減量を目的として活動してきました。当然のことながら、毎年数十トンも排出されるごみの分別回収や減量には駒場祭に参加する学生や、来場者の皆様の協力が欠かせません。しかし、一般学生や来場者の方にとって私どもが行っている環境対策・ごみ対策は複雑すぎるという印象を与えることもあります。そこで、私ども環境対策に好意的に協力いただくために私どもの活動の意義を理解していただくことが必要になります。これが広報の目的の一つ目です。

また、駒場祭は来場者十万人という大規模なイベントでありながら、8年に渡る活動で蓄えられたノウハウを活かして、効率的な環境対策を行っています。このノウハウは他の学園祭、あるいは地域のイベントなどに十分に活かせるものであると自負しており、このノウハウを各イベントの主催者に参考にしていただけるように、HPを用いて広く一般に公開しています。これが広報の目的の二つ目です。

3. ホームページの公開

エコプロジェクトではその活動を理解していただくために、ホームページを開設しています。アドレスは

<http://kfceco.hp.infoseek.co.jp/> となっております。

このホームページでは、ごみ分別方法やエコブース（10ページ参照）の活動内容を紹介するだけでなく、エコプロジェクトの活動理念や8年間に渡る活動の経緯をお伝えしています。まず私どもがそもそも何を行っているのかを知っていただく、ということの主眼においてこのホームページを作成しました。このホームページをご覧になった方の中には、私どもの活動に賛同し、エコプロジェクトの活動に途中から参加した学生もおりました。

しかし、反省点としてはこのホームページの存在自体の知名度が低い、ということが挙げられます。2005年度は駒場祭の公式ホームページと同じサーバ内にサイトを開設することを考えています。また、一般学生や他のイベントでの経験をお持ちの方の意見を活動に柔軟に反映させられるように、このホームページを双方向の意見交換の場にしたいと考えています。

4. パンフレットによる活動紹介

駒場祭委員会が発行している公式パンフレットにエコプロジェクトの活動紹介や参加者への環境配慮の呼びかけを掲載しました。巻頭のカラーページには、ごみの分別方法を記載し、来場者の方がごみを捨てる際に参考になるようにしました。また来場者の方が意識する機会が少ない、ごみの処理方法を紹介したり、エコブースにおけるイベント情報を掲載したりする等とともに、エコ企画（13ページ参照）の場所を紹介するという優先広報を行い、エコ企画を行う団体にメリットを与えるようにしました。

多くの方がご覧になるパンフレットということで、ごみ分別などの啓発には十分な効果があったと考えています。

5. 協賛企業の皆様の広告

今年度は「日経BP 環境経営フォーラム 第3回環境ブランド調査」（2002年5月実施）の環境ブランド指数上位の企業の皆様にご協賛をお願いいたしました。これは、環境対策を行う上で信頼できる企業の皆様からご協賛をいただきたい、という私どもの願いがあったからです。

私どもの活動に賛同し、ご協賛を提供してくださった企業の皆様のメリットと致しましては①エコプロジェクトホームページから各企業ホームページへのリンクの掲載②駒場祭公式パンフレットへの企業広告の掲載、の2点が挙げられます。

① エコプロジェクトホームページから各企業ホームページへのリンクの掲載

前述の通り、エコプロジェクトでは駒場祭での環境対策を紹介するホームページを公開しております。（URLは「3、ホームページの公開」をご参照ください。）ご協賛をいた

だきました企業のホームページへのリンクを、ホームページのトップページ上「Friends」より入ってすぐのページから張らせていただきました。ご協賛の額に関わらず全ての企業のホームページへのリンクを掲載しております。ちなみに、このホームページには駒場祭前後の1ヶ月程度の間には数百人がアクセスしたことが分かっております。なお、本年度はバナーは掲載しておりませんが、現在バナーの掲載の是非も検討しております。

② 駒場祭公式パンフレットに企業広告を掲載

駒場祭では全学生と購入を希望する来場者の方に公式パンフレットを発行しております。その配布数は例年約1万部に上り、多くの方の目にとまるものとなっております。そのパンフレット中におきまして、環境対策を紹介するページがございまして、その一部にご協賛をいただいた企業の皆様の広告を掲載致しました。なお、こちらの広告はご協賛の額によって大きさが異なっております。詳しくは私どもにお尋ねください。

以上の2点がご協賛をいただいた企業の皆様のメリットとなっております。

なお、今年度は以下の企業の皆様からご協賛をいただきました。皆様のご協賛のおかげで充実した環境対策を行うことが出来ました。簡単ではございますが、この場をもちまして企業の皆様への活動のご報告と御礼とさせていただきます。誠にありがとうございました。

積水化学工業株式会社

YKK 株式会社

株式会社INAX （以上、敬称略）

5. 広報

6. 担当者総括

今年度は、私どもが持っている情報をできるだけ公開することで学生・来場者の方に環境に配慮する意識を持っていただこう、ということの主眼において広報にとりくみました。私どもの環境対策の意義を理解していただき、多くの学生、来場者のみなさんが私どもの活動に好意的に協力してくださったという事実は、今年度の広報がある程度の成果を収めたことを示すものとして考えてよいでしょう。

しかし、今年度は「情報公開」にとどまってしまう、「広報」には至らなかった、と考えることもできます。本来広報とは、あることに日頃なじみが薄い人にそのことに対する興味をもっていただくことを目的とすべきです。しかし、今年の広報では興味がある人は私どもから情報を得ようとするが、興味のない人には情報に触れる機会が少ない、という事態に陥りました。今後は、広報をご覧になった人がメリットを得られるような仕組み、例えばクーポン券をホームページから印刷できるようにする、などの工夫を検討する必要があります。

また、私どもの活動を知らないが、環境問題には興味がある、といった人々に私どもの活動を紹介する必要も感じました。環境団体への電子メールによる広報、なども検討する意義は十分にあります。

広報という手段は、私どもの活動を駒場祭当日以外にも参照できるというところに大きな意味があります。IT技術が発達した現在、種々の技術を活用してより広く、いつでも私どもの活動を知っていただけるような広報活動を行っていかねばなりません。

志水 正敏

⑥ エコ容器

1. 目的

駒場祭での模擬店数は200店以上にもなり、そこから出されるごみは駒場祭における環境問題に直結しています。

1997年からはじまったエコプロジェクトは、模擬店からのごみを減らせないのか、環境にやさしいお皿にすることはできないのかと考え、模擬店で使用する容器などを統一して管理することで、環境負荷の小さい容器を取り入れるということだけでなく、自前で容器を調達する手間を省いたり、ごみ処理を簡便化させたりすることに取り組んできました。

1999年以前は発泡スチロール製のトレーを一括購入し、使用後はリサイクル業者に委託してリサイクルしたり、プラスチック製の皿を洗って何度も使用したりするなどといった活動を行っていました。そして、2000年からは駒場祭委員会が非木材製容器を一括購入し、模擬店に配布するという方式をとっています。

2. 容器の選定

環境にやさしい容器(エコ容器)には、紙容器の上にビニールが貼ってあり、使用後はビニールをはがして再利用できるものなどさまざまな種類がありますが、今年は昨年の駒場祭でも使用した非木材製容器を引き続き使用しました。

3. 容器の種類

2004年度駒場祭で一括購入した製品と販売元は以下の通りです。

非木材製容器	
割り箸リサイクルナプキン	伊藤忠紙パルプ株式会社
非木材製紙コップ	
間伐材製割り箸	JUON NETWORK

購入した容器の概要は以下の通りです。

①非木材製容器(購入総数 75,500 個)

伊藤忠紙パルプから購入した容器は、葦パルプを原料としたモールド容器です。葦は、河川域などを中心とした広い範囲に生育しており、生育も早く、半年で2~3メートルは成長するイネ科の多年草です。生長を助ける定期的な伐採が河川・湖沼の汚染を防ぐ地球に優しい素材です。

この非木材製容器を使用することで、一般的なポリスチレン製容器とは違って、環境にやさしい素材を用いるというメリットとともに、使い終わった容器をトイレトーパーなどにリサイクルできるので、焼却などによる環境負荷の削減につながるという排出時のメリットも持ち合わせています。

②割り箸リサイクルナプキン

(購入総数 10,000 枚)

紙ナプキンは割り箸から再生して作ったものを使用しました。ナプキン表面には、割り箸から作られたことが書かれており、環境対策をアピールしました。

③非木材紙コップ(購入総数 47,500 個)

紙コップは、原料の一部に非木材製のケナフや竹、さとうきびの搾りかすを使用したものを使用しました。側面には環境に配慮しているということが書かれています。

6. エコ容器

④割り箸（購入総数 52,000 膳）

割り箸は、国内の森林での間伐材を使用したものです。森林育成には間伐作業が不可欠ですが、近年、林業従事者の高齢化とともに間伐作業も滞り、国内の森林は十分な整備がなされていないといわれています。間伐材製品を利用することは、森林資源を有効活用することももちろん、森林の育成にとってもきわめて重要だといえます。

⑤三方袋（バーガー紙）（購入総数 20,000 枚）

これは、非木材製のものではありませんが、タイヤキや饅頭などは、エコ容器を使うよりも、三方袋を使ったほうがごみが少なくなります。

4. 決算

容器購入の際には、容器を使用する企画からそれぞれ注文を駒場祭委員会が受け取り、それを一括して業者に発注する形をとりました。その際、容器の代金の補助として駒場祭委員会が一部を負担しました。これにより、ポリスチレン製容器よりも高価格となりがちな、非木材製容器のが模擬店にとって低価格で提供されるので、容器の普及を進める上で非常によかったです。

以下は、今年の容器にかかわる決算報告です。

収入		支出	
事前販売分	815,750	伊藤忠紙パルプ株式会社	1,042,367
当日販売分	80,700	JUON NETWORK	113,568
委員会からの補助金	200,000		
収入計	1,096,450	支出計	1,155,935

収支	-59,485
----	---------

5. 担当者総括

今年も駒場祭における容器対策は基本的に、非木材製製品の利用という昨年からの継承と言う形をとりました。毎年、同じ形とすることで、来場者や参加者の駒場祭での容器への意識が浸透していていることは確かです。実際今年のエコ容器導入率は87.1%でした。エコ容器を導入していない企画の中には、クレープなどで適当な容器がないために購入していないところもあるため、実際の導入率は約94%です。このように、環境に優しい容器は確実に普及していています。

しかし、この容器も駒場祭が終われば、すべてリサイクルするにしても、大量の廃棄物として排出されるわけです。この量についても来年以降対策を講じていく必要があると考えています。また、容器以外のものについても、ごみの減量、「環境にやさしいもの」の導入を来年以降推進していきたいと考えています。

東京大学として、学内外に広く影響を与えるような「環境対策」を目指していかなければならないという考えのもと、来年以降も引き続き活動していきますので、今後のエコプロジェクトにぜひとも注目していただきたいと思います。

また、容器購入・回収業者の方々、他大学の学園祭スタッフの方々にはさまざまな面でお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

武部 芳弘

7 収支報告

第 55 期駒場祭委員会環境局決算

収入	内訳	予算	決算
環境局予算		500000	500000
環境対策に関する協賛金 (五十音順)	株式会社 INAX 様 積水化学工業株式会社 様 YKK 株式会社 様	100000	185000 15000 150000 20000
環境局 収入計		600000	685000
容器販売代金		700000	896450
ダンボールパネル販売代金		0	54075
全体計		1300000	1635525

支出	内訳	予算	決算
再生処理費	可燃	0	0
	ケミカルリサイクル(ビニプラ)	250000	47250
	古紙		33285
	PET ボトル	100000	21000
	ダンボール		31500
	ビンカン		21000
	木材	100000	68166
	金属	0	0
	特殊ごみ	0	0
ごみ処理費計		450000	222201
エコプロジェクト関連費		70000	70000
エコ企画優遇	デポジット機の導入	80000	84000
	ラッキーチケット	0	3800
ダンボールパネル購入費	天文部 (100 枚)	0	94500
	環境三四郎 (2 枚)		
	エコプロジェクト (18 枚)		
支出計		600000	474501
容器購入費		900000	1155935
全体計		1500000	1630436

今期収支		-200000	5089
------	--	---------	------

以上の通り、今期会計を報告いたします。
(2005/1/6 現在)

第 55 期駒場祭委員会環境局長 福吉 隆行

(注 1) 新日本製鐵株式会社様のご協力によって、今年からコークス炉化学原料化の手法による、廃プラスチックのケミカルリサイクルを行っていただきました。詳しくはケミカルリサイクルの項をご覧ください。

(注 2) 容器購入代金の一部を駒場祭委員会が負担することにより、環境配慮型容器の低価格化を行いました。これにより、環境配慮型容器導入の障害となりやすい金銭的な問題を解決し、参加団体への導入率を上げることができました。容器関連の詳細に関しましては、容器対策の項をご参照下さい。

⑧ 環境局長総括

今年度の駒場祭の環境対策は、この報告書に書き記されている通り、非常に多岐にわたりました。

そのそれぞれに反省点・改良の余地があるものの、概して円滑に活動を行うことができました。

学園祭の環境対策として、これだけ積極的に取り組み、今年も一つの結果を残せたことに、多くの方のご厚意になにより感謝すると共に、環境対策を担う駒場祭エコプロジェクトとしての自負も生まれてきたのだと思います。

実際、学園祭の環境対策は、多くの大学でまだ十分に行われているとは言えないのが現状だと思います。そういった状況下で、学園祭の環境対策の担い手とはどうあるべきでしょうか？

他の大学の環境サークルの人からは、「学園祭委員会の人たちは官僚的で、環境のことなんか少しも考えていない」こうよく耳にします。また、ある学園祭委員会の友人は「環境サークルの人たちは、学園祭のことではなく、環境のことしか考えていない」と口にしています。

このようなケースが多くの大学で、さらには、大学以外の社会でも、現実には起きているのだと思います。駒場祭エコプロジェクトで重要視していたのは、環境サークルと学園祭委員会の二つの組織間のバランスです。私たちはお互いが歩み寄り、お互いを理解しあえるような組織体制を目指しました。それによって、学園祭と環境の両方にとってより望ましいあり方を考えるという駒場祭委員会エコプロジェクトとしてのミッションを達成できるような、より良い形での環境対策を実現して

きたのだと自負しています。

今年のエコプロジェクトには、昨年の活動を見て興味を持ったという人たちが参加してくれました。時代の流れと共にこのような意識が学生の中で少なからず向上しているのだと実感しつつ、こういった意識を持ってくれた人たちを一層受け入れられるように心がけていきたいと思います。そして、これからも、わたしたちがよりよい環境対策を引き続き行っていくのはもちろんですが、学園祭の環境対策が、ひいては、環境への配慮が、普通の学生や来場者といった方々にとって、もっと身近なものとして感じてもらえるようにエコプロジェクトを続けていきたいと考えております。

また、今年度の活動を通じて、学園祭と環境のよりよいあり方の一つの形がおぼろげながら見えてきたのではないかと思います。

確かに、学園祭では日常とは比べ物にはならないほどの量のごみが排出されているということを考えれば、学園祭という場で環境問題を考えることはいささか場違いのように思われる方がいるかもしれません。中には、環境保全のためを思うならそもそも学園祭をやらなければいいと考える人もいるのかもしれませんが。

それでは、一般に考えられているように、学園祭とは環境にとって「マイナス」でしかないのでしょうか――

学園祭の環境対策とは、その「マイナス」を小さくすることだけなのでしょうか――

私たちは学園祭を環境と対立するものとしてではなく、別の観点から捉え直しました。

まず、学園祭を「社会の縮図」と捉え、現実の社会でとられている対策以上の、学生の

8. 環境局長総括

立場だからこそ出来る、社会にとってより望ましい環境対策を積極的に採っていくということ。

さらに、学園祭を環境負荷という数値的な側面だけで測るのではなく、学園祭を一つの「舞台」として、多くの人を訪れる学園祭の中だからこそできること、つまりは来場者や学生へのフィードバックを重要視していくということ。

これらの学園祭の二つの切り口を意識しながら、今年度の活動を行ってきました。

環境問題は、一元的なものではなく、多面的な原因が複雑に絡み合っていて、引き起こされています。

学園祭は環境にとって「マイナス」か？

「マイナス」は一つの軸の中での一つの見え方に過ぎません。

もっと多くの軸が学園祭の中に、そして、学園祭の環境対策の中に見えるはずですよ。

そして、見方を変えることで、いくつもの「プラス」が創り出せる環境対策が見えてくるということが、実感として、理解することができました。

今年で八年目を迎える私たちの活動ではありますが、まだまだいくらかでも改良の余地があると思います。

というのも、社会における環境問題への考え方や取り組みが刻一刻と変容し、よりよいものを求めていくように、私たちが行う環境対策も終点の無いものだと考えているためです。

「惰性ではなく、常にその時点で最も望ましい環境対策を模索すること。」

発足から今にいたるまでの八年間の積み重ねの真価はそこにあると考えるとともに、今

後とも、エコプロジェクトの「続いてく」という理念がその中で生き続けられるような活動をやっていきたいと強く思っています。

末筆ながら、駒場祭エコプロジェクトにおいて、このような有意義な活動が行えたのも、多くの心ある方々の支えがあったこと。皆様のご支援に重ねて感謝の意を表しながら拙稿を閉じさせていただきたいと思っております。

誠にありがとうございました。今後とも駒場祭エコプロジェクトをよろしくお願い致します。

第 55 期駒場祭委員会環境局長
福吉 隆行



第 55 回駒場祭エコプロジェクト
活動報告書 ver. 1. 3
〈2004 年度〉

発 行：第 55 期駒場祭委員会環境局

発行日：2005 年 3 月 18 日

改 定：2005 年 10 月 18 日

T E L：03-5454-4349

U R L：http://kfceco.hp.infoseek.co.jp/

M a i l：kfc@a103.net